

お稽古・習い事市場に関する調査結果 2009

【調査要綱】

矢野経済研究所は、次の調査要綱にてお稽古・習い事市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2009年1月～3月
2. 調査対象：お稽古事や習い事を事業として展開している企業や団体、個人事業主、及び関連商品のメーカーや卸、小売店、等
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談や電話、FAX等によるヒアリング、官公庁及び業界団体等の各種統計データによる文献調査を併用

＜お稽古・習い事市場とは＞

本調査におけるお稽古・習い事市場とは、先生（師匠・家元・師範・講師・コーチ等）から技術や知識、教養を指南される教室や会、サークル、催しが主体のものをお稽古・習い事市場とし、いわゆる日本文化や芸術の分野、趣味・創作系の分野、スポーツの分野は主要（コア）市場、娯楽系や学校が主体のビジネス・資格系、その他（芸能スクール）は周辺市場として市場を分類、分析した。本調査の対象分野は20分野としたが、その内「ネイル」はスクールだけの規模ではなく、一般の施術料や物販も含まれるため、ここでは「ネイル」を除く19分野とし、月謝ならびに受講者数をベースに推計した。なお、本調査対象20分野とは、茶道、華道、書道、日舞、音楽、陶芸、ダンス、料理、手芸・編物・クラフト系、水泳、テニス、ゴルフ、体操、フィットネス、囲碁、将棋、英語・語学、パソコン、ネイル、その他（芸能）をさす。

【調査結果サマリー】

◆ 2008年のお稽古・習い事市場は、前年比98.9%の1兆8,058億円

2008年のお稽古・習い事市場規模（調査対象の19分野合算値）は、1兆8,058億円、前年比98.9%であった。趣味・嗜好の多様化、少子高齢化の進行などから参加者の獲得は容易ではなく、各分野は厳しい状況にあるが、同年は、テニス、体操、フィットネス、その他（芸能）がプラス成長と推計した。

◆ 今後やってみたい「趣味・習い事」のトップは「陶芸」

本調査に関連した消費者アンケート調査結果では、今後やってみたい「趣味・習い事」として、男女共にトップは陶芸（男性：31.9%、女性：35.0%）であり、モノ作りへの興味や関心、憧れが高いことが伺える。また、「料理、お菓子」も男女共に上位に挙げられた。

◆ 資料体裁

資料名：「お稽古・習い事市場 2009年版」
発刊日：2009年3月30日
体裁：A4判 238頁
定価：115,500円（本体価格110,000円 消費税等5,500円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

（株）矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

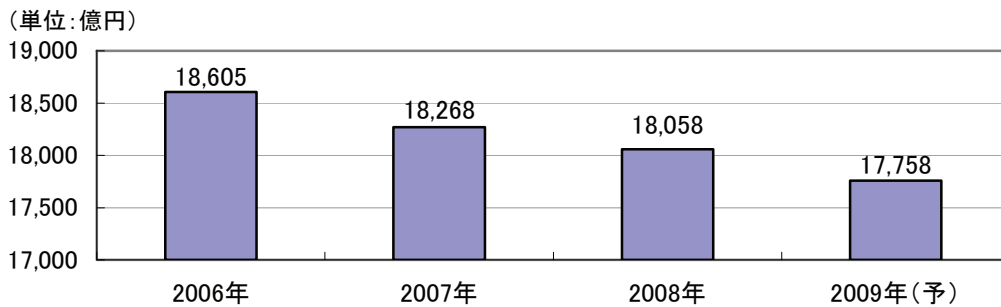
1. 市場概況

1-1. 市場規模推移

2008年のお稽古・習い事市場規模(調査対象の19分野合算値)は、前年比98.9%の1兆8,058億円と推計した。2009年は1兆7,758億円、同98.3%と引き続きマイナス成長が見込まれる。

お稽古・習い事市場は、趣味・嗜好の多様化や少子化から参加者の獲得は容易な状況ではなく、参加者や指導者の高齢化が進行するなど問題を抱えている。また、2008年からの景況感悪化の影響を受けて、受講費の高いお稽古・習い事は参加率が低下傾向にあるとみられ、2009年の市場規模はマイナス成長になると予測する。

図1. お稽古・習い事市場規模推移

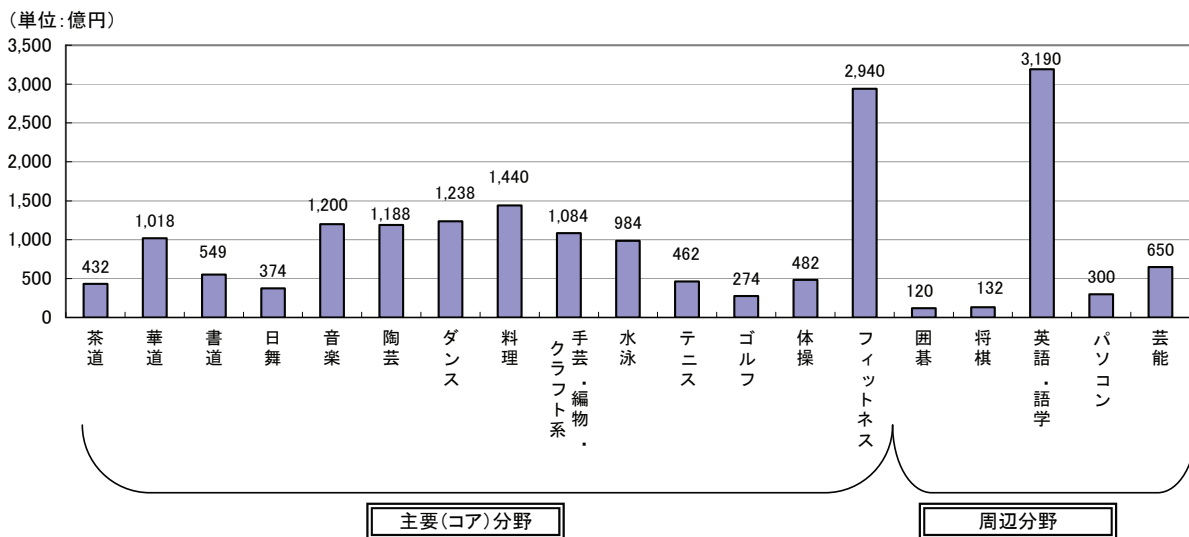


矢野経済研究所推計

注1: 調査対象の「ネイル」を除く19分野の合算値

注2: (予)は予測値

図2. 2008年 お稽古・習い事分野別市場規模



注3: 市場を「主要(コア)分野」と「周辺分野」に分けて分析。主要(コア)分野とは、日本文化や教養・芸術、スポーツを含む、趣味的要素が強くお稽古事の中心となる分野であり、周辺分野は、パソコンや芸能などビジネス要素の強い分野、遊びの要素の強い娯楽分野を含む。また、子供向けも大人向けも対象に含まれる。なお、「フィットネス」以外は矢野経済研究所推計

注4: 「体操」は、子供向け体操教室の市場規模

注5: 「フィットネス」は、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」より引用、当該データには物販収入等も含まれる。

注6: 「英語・語学」、「音楽」、「その他(芸能)」は年度での算出

注7: 「囲碁」「将棋」は、席料での算出

表 1. お稽古・習い事分野別市場動向

| 分野 | 市場規模 | 市場概況 |
|-------------|-------|--|
| 陶芸 | 拡大傾向 | モノ作りへの憧れなどから参加意欲の高い分野。 ただし、2008年頃から参加者獲得がままならない教室の閉鎖が続く。 |
| 体操 | | 子供の身体能力を伸ばすだけでなく、躰にも役立つ習い事として親から高い人気。 |
| フィットネス | | 「メタボ」対策プログラム、ヨガ、ピラティスなどの人気が高い。 ただ、会員の獲得には各社苦慮しており、小型施設の拡大などで参加者を呼び込む。 |
| ネイル | | 趣味や自分磨きだけでなく、起業を目指す人も多いため市場は急速に拡大。 |
| 芸能 | | お笑いブームや女性タレントの活躍から市場は増加傾向 |
| 音楽 | 横這い傾向 | 子供の参加が低下傾向に対し、大人の参加者が増加傾向。 近年公開された映画やオヤジバンドブームの影響が大人層拡大に繋がる。 |
| ゴルフ | | 若手選手の活躍などから若年層の参加者が増加。 女性層・「ギャルファー」など、新たな参加者が拡大傾向。 |
| テニス | 縮小傾向 | ブーム沈静化により市場規模は2008年減少となる。 マンガ効果や若手選手の活躍でキッズ・ジュニア層が拡大するも、一時のブームは沈静化。 |
| 茶道・華道 | | 全体的な人口減少の中、参加者減少が続く。 一方で、「品格ブーム」などから日本文化として良さが見直される動きもみられる。 |
| 書道 | | 人口減少による書道人口減少の中、IT化が進む中「書く」行為の見直しの動きがあるほか、アート性の高い教室は人気に。 |
| 日舞 | | 人口減少に準じて、参加者減少。 一方で、日本文化としての良さが見直される動きも。 |
| ダンス | | ダンス教室数の減少により市場は縮小傾向。 フラ、ベリーダンス、ポールダンス、ストリートダンスなどは人気を集めている。 |
| 料理 | | 料理教室数減少により市場は縮小傾向にあるが、近年は男性やシニア向け教室が増加傾向のほか、「料理合コン」も注目を集める。 |
| 手芸・編物・クラフト系 | | 趣味の多様化から参加者は減少。 参加者の高齢化が進行しており、若い世代の獲得が課題。 |
| 水泳 | | 少子化によるジュニア市場の縮小に加え、スポーツ/フィットネス施設のフィットネスプログラム拡充やプールレス施設の増加傾向がプール離れに影響。 |
| 囲碁 | | ブーム終焉後であり参加者減少となる。 近年はマンガ効果で参加者が増加したが、ブーム後は若年層が抜け参加者は再び減少。 |
| 将棋 | | 競技人口の減少は続いており、縮小傾向となる。 近年は、若手女流棋士の活躍で若年層・女性層の拡大がみられる。 |
| 英語・語学 | | 市場の飽和、大手教室の破綻などから減少傾向が続く。 ただし、幼児・子供向け教室は、英語教育に関心を持つ親の影響により規模が増加傾向。 |
| パソコン | | パソコンの普及やIT化の進行に伴う初心者層の減少が要因。 ただ、シニア向けなどは依然需要が高い。 |

矢野経済研究所作成

1-2. 市場概況

日本の人口は少子高齢化のなか、今後減少の一途を辿ると予測されていることで、今後もお稽古・習い事教室の参加者を獲得していくには積極的な販促活動を継続して行うことは必要不可欠である。そのため、1日体験教室や1日完了型の教室のほか、大人やシニア向けの教室、親子で楽しむ教室の開設など、より多くの参加者を獲得するための取り組みを行っており、消費者の関心の高まりと合致した教室は参加者の増加に繋がっている。

近年の健康や美容、痩身への意識の高まりから、スポーツ分野の習い事であるヨガやピラティス、フィットネスでの「メタボ」対策のプログラムなどが人気を集めている。ベリーダンスやフラダンスも、痩身目的の他に女性らしさが磨かれるとして20代・30代の女性を中心に人気が高い教室である。

そのほか、所作や礼儀作法が身につく茶道や華道、頭が良くなるとしてそろばんなど、「品格ブーム」や「脳トレブーム」なども後押しとなり、日本文化や頭が鍛えられる分野が見直される動きがみられる。また、近年では語学と料理を同時に学べる教室など他の分野同士を組み合わせた付加価値の高い講座の開設、出合いの場となる「合コン」と組み合わせた教室の開設も行われている。

2. 趣味や習い事に関する消費者アンケート調査の結果について

本調査に関連した消費者アンケート調査の実施要綱

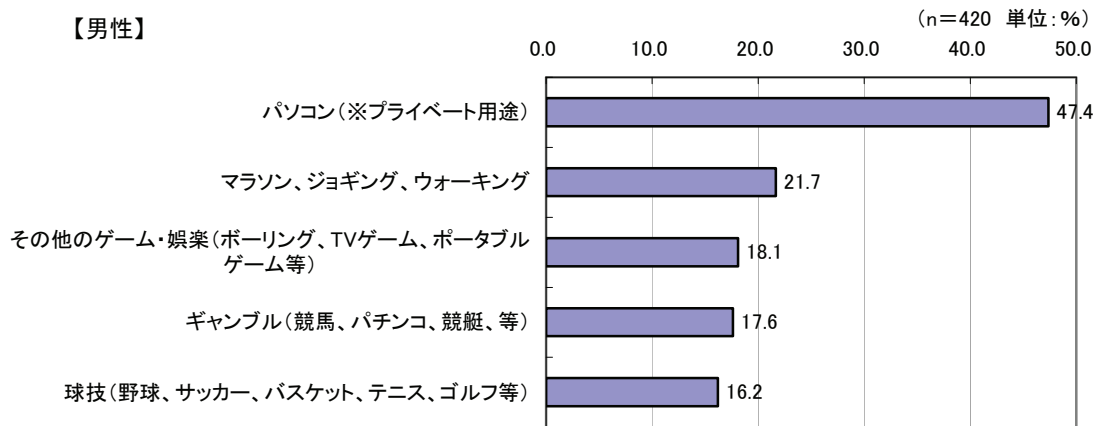
1. 調査期間：2009年2月
2. 調査対象：関東圏在住（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、群馬県、茨城県、栃木県）の10代～70代の男女、計840人 ※10代は18歳・19歳のみ対象
3. 調査方法：インターネットによるアンケート調査

2-1. 「今、やっている」趣味・習い事について

「今、やっている」趣味や習い事としては、男性は「パソコン（※プライベート用途）」がトップで47.4%を占めており、次いで「マラソン、ジョギング、ウォーキング」21.7%、「その他のゲーム・娯楽（ボーリング、TVゲーム、ポータブルゲーム等）」18.1%、「ギャンブル」17.6%、「球技」16.2%と続いている。

また、女性も「パソコン（※プライベート用途）」がトップで23.3%を占めており、以下、「マラソン、ジョギング、ウォーキング」11.9%、「その他のゲーム・娯楽（ボーリング、TVゲーム、ポータブルゲーム等）」9.8%、「料理、お菓子」9.5%、「ヨガ、ピラティス」9.0%と続いている。

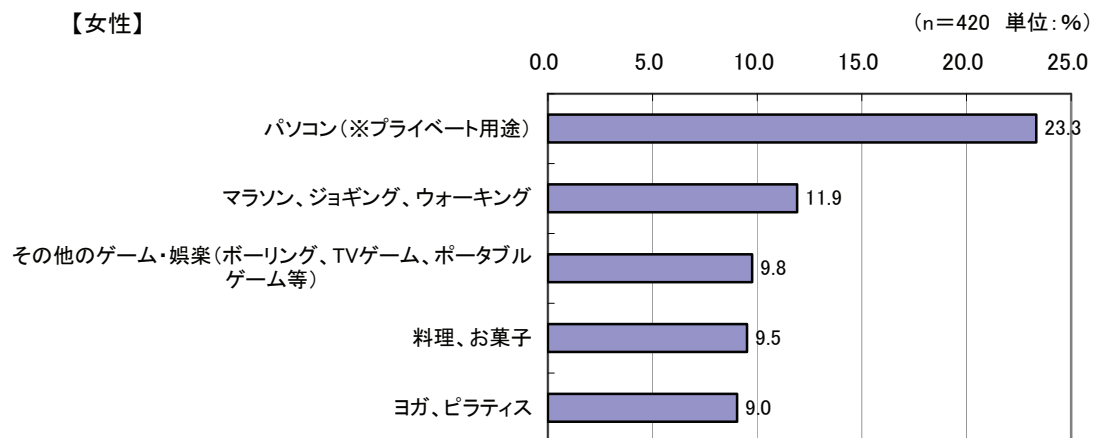
図 3-1. 「今、やっている」趣味・習い事について(男性)



矢野経済研究所作成

注 8: 上位 5 位までを抽出、集計対象は男性回答者 420 名、複数回答

図 3-2. 「今、やっている」趣味・習い事について(女性)



矢野経済研究所作成

注 9: 上位 5 位までを抽出、集計対象は女性回答者 420 名、複数回答

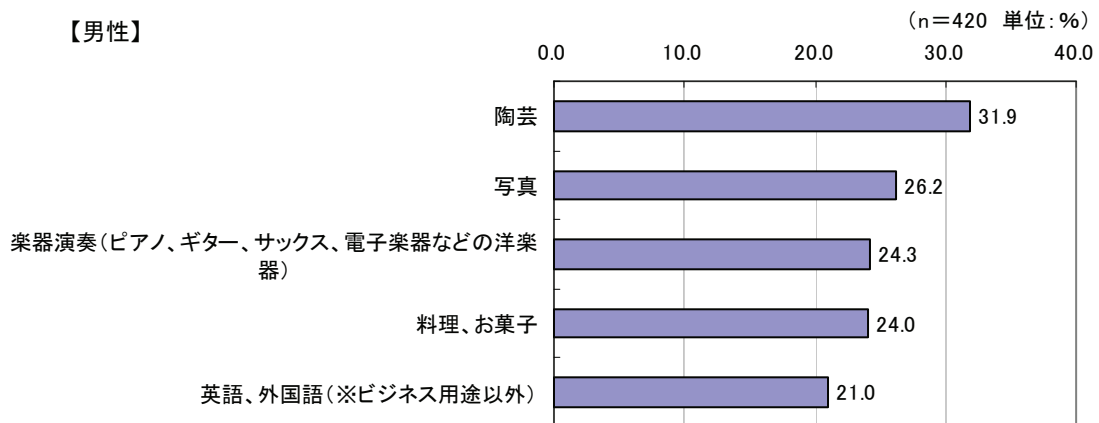
2-2. 「今後やってみたい」趣味・習い事について

「今後やってみたい」趣味や習い事としては、男性は「陶芸」がトップで 31.9%を占めており、「写真」26.2%、「楽器演奏」24.3%、「料理、お菓子」24.0%、「英語、外国語」21.0%と続いている。

また、女性も「陶芸」がトップで 35.0%を占めており、「ヨガ、ピラティス」33.3%、「料理、お菓子」32.4%、「アロマテラピー」31.7%、「フラワーアレンジメント、押花、プリザーブドフラワー」29.8%と続いている。

「陶芸」、「料理、お菓子」は、今後やってみたい趣味・習い事として男女共に上位の項目に挙げられた。

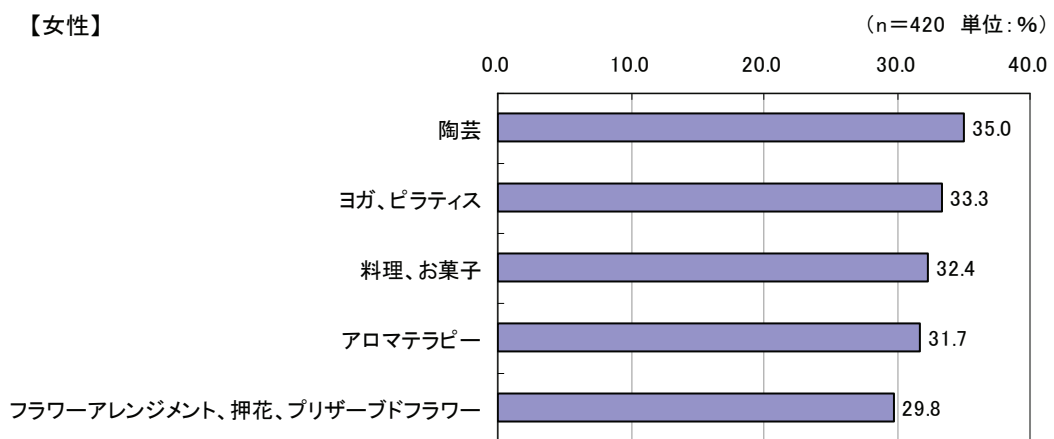
図 4-1. 「今後やってみたい」趣味・習い事について(男性)



矢野経済研究所作成

注 10: 上位 5 位までを抽出、集計対象は男性回答者 420 名、複数回答

図 4-1. 「今後やってみたい」趣味・習い事について(女性)



矢野経済研究所作成

注 11: 上位 5 位までを抽出、集計対象は女性回答者 420 名、複数回答